

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察技術情報について

令和6年度病害虫発生予察技術情報第7号を発表したので送付します。

## 令和6年度病害虫発生予察技術情報第7号

### 冬春期野菜の定植時および生育初期の病害虫防除対策について

ウイルス病を媒介するアザミウマ類やアブラムシ類、コナジラミ類などによる生育初期の被害は、その後の生育・収量に大きな影響を及ぼすため、防除対策を徹底しましょう。

#### 1 生態

##### (1) ミナミキイロアザミウマ

成虫の体長は雌 1.2~1.4mm、雄約 1.0mmで、体色は雌雄ともに黄色である(図1)。葉や果実等を食害し(図2)、スイカ灰白色斑紋ウイルス(WSMoV)等を媒介する。発病すると、葉では明瞭なえそ輪紋症状等を生じ(図3)、株は萎縮し、生育不良となり収量が低下する。

##### (2) アブラムシ類

雌成虫の体長は1.4~1.6mm程度で、体色は黄色~黒緑色まで変化がある(図4)。年間多くの世代を繰り返し、高密度になると有翅虫が出現し、移動分散する(図5)。吸汁害によって葉巻きや葉の萎縮を引き起こし、多発すると生育が阻害されるモザイク病の病原ウイルスであるズッキーニ黄斑モザイクウイルス(ZYMV)等を媒介する(図6)。発病すると、葉に黄色の斑点を形成し、次第にモザイク症状を呈する。

##### (3) タバココナジラミ

成虫の体長は約 0.8~1mmで、成虫の翅は白色、体は淡黄色である(図7)。幼虫は淡黄色~黄色である(図8)。本種は吸汁による生育阻害や、排泄物に発生するすす病等の被害を引き起こし、トマトなどでは果実の着色異常、さやいんげんでは白化症の原因となる。トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV)等を媒介し、発病すると、上位葉の黄化、葉巻、萎縮などの症状がみられる(図9)。

#### 2 防除対策

- (1) 定植前に、病害虫の発生源となるほ場内外の雑草を除去する。また、ほ場周辺の管理されていないウリ科作物等は、ウイルス病の伝染源となるので速やかに処分する。
- (2) 露地栽培では、防風ネットの設置や、防虫ネットによるトンネル被覆により害虫の飛来侵入を防止する。カボチャ栽培では、防風対策をかねてほ場周辺をネットやソルゴーで囲うことや、シルバーテープを場内に張ることでアブラムシ類有翅虫の飛来を防止する。
- (3) 施設内への飛来侵入を防ぐため、出入口は開放せず、施設の開口部には目合いの細かい防虫ネットを張る。
- (4) 近紫外線除去フィルムや施設周辺への光反射シートの設置も害虫の侵入防止に効果的である。
- (5) 定植時には、害虫が寄生していない健全苗を用い、病害虫の発生を防ぐため粒剤等を施用する。
- (6) 定植後、ウイルス病等に感染したと疑われる株を発見したら、速やかに株を抜き取り、ビニール袋などに入れてほ場外に持ち出し処分し、媒介虫の防除を徹底する。

### 3 防除対策上注意すべき事項

- (1) 黄色粘着テープ等により早期発見に努める。
- (2) これらの害虫は薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖系薬剤や微生物農薬も使用する。
- (3) 物理的防除や耕種的防除を含めた総合防除対策の徹底が必要である。

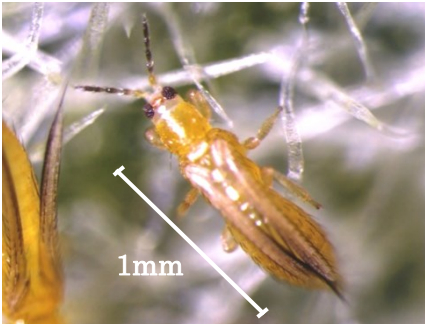


図1 ミナミキイロアザミウマ成虫



図2 被害葉



図3 えそ輪紋症状



図4 アブラムシ類雌成虫、幼虫

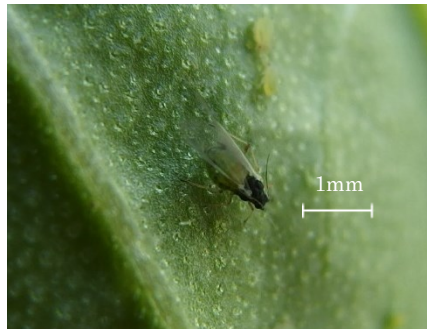


図5 アブラムシ類有翅虫



図6 モザイク病の症状



図7 タバココナジラミ成虫



図8 タバココナジラミ幼虫



図9 トマト黄化葉巻病の症状

★詳しくは県病虫害防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL：(本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス： <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.h>

